

行田 歴史系譜 265

砲術形状図式

歴史を語るこの「いっぴん」
博物館の収蔵庫から

1

郷土博物館では昭和63年の開館以来、多くの資料を収蔵してきました。今回から博物館が収蔵する資料の紹介を通して、行田市の歴史を探ってみます。

砲術形状図式は、忍藩士の火縄銃や大砲の訓練の様子を描いた絵巻物です。戦国時代、日本に火縄銃が伝来して主要な武器になると、その射撃術を職業とする砲(炮)術家が生まれました。

江戸時代には200を超す流派があったといわれています。

しかし、太平の世が続くと、砲術を実戦で生かす機会はなくなり、砲術は武士の嗜みである。砲術の習得や心身鍛錬の科目となり、忍藩でも萩野流・武衛流・安東流の三流派が採用され、多くの藩士が鍛錬に励んでいました。この絵巻物は、そのなかの武衛流砲術の訓練の様子を描いたもので、巻頭の詞書によれば、安政4年(1857)に忍藩士岩崎長容が藩の砲術師範だった井狩直貞の息子のために描いたことが記されています。

この絵巻物の特徴の一つは、藩



砲術形状図式(角場における膝打)

士が訓練を行っている場所が推定できることです。平成24年に行われた埼玉古墳群の中の鉄砲山古墳の発掘調査で、多数の鉄砲玉が見つかりました。鉄砲山古墳はここで忍藩が鉄砲の訓練をしたことが名前の由来であり、博物館でも埼玉村で行われた射撃訓練の記録を所蔵していますが、発掘によってその場所が明らかになりました。絵巻にも古墳とみられる小山に向って、鉄砲を構える藩士の姿が描かれています。また、忍藩は大砲の訓練を久下(熊谷市)付近の荒川の河原で行いましたが、こちらも河川敷で大砲を撃つ様子が描かれています。

忍藩は嘉永6年(1853)に江戸品川沖の第三台場の警備を命じられ、藩士を現地に派遣しました。外国船来航に備えた警備のため、主力となる武器は大砲であり、砲術の重要性が高まりました。そのような中、藩士の砲術の訓練を詳細に描いた絵巻は全国的に見ても貴重な資料といえます。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

こせに ちゃんが 行く!

with フラベス

福祉施設編

絆 なかまの家 (運営:NPO法人 CILひこうせん)

今月は「絆 なかまの家」に行ってきましたよ。平成17年4月に開設されたなかまの家では、障がいを持った人が地域で自立して暮らせるように、スタッフの皆さんが生活のサポートをしているんだ。現在は、6人が共同生活を送っているよ。

月曜日から金曜日は、日中それぞれが所属する障がい者施設で働き、夜はなかまの家で過ごしているんだって。土・日曜日は外出したり、自分の部屋でくつろいだりと思いたいことをしてリフレッシュしているよ。お誕生日には仲間と一緒にパーティーを開くんだって。楽しそうだね。

入所者もスタッフもとても仲が良く、笑顔が絶えないなかまの家。明るくてアットホームな雰囲気がとても魅力的な施設だったよ。

【住所】長野4613-1 【電話番号】559-2555



このコーナーで紹介する施設を募集していますので、希望される場合は広報広聴課までご連絡ください。

今月の表紙

今年度、星宮小学校は開校130周年を迎えました。これに伴い、3月5日には記念式典を開催。式典では、創立60周年を迎えた熊谷市立星宮小学校と共同で制作した星宮かるたを使った大会も行われ、大いに盛り上がりました。自分たちが制作したかるたを手にし、にっこりと笑顔を見せる優勝チームの子供たち。地域に愛着を持ってもらうよう、同校ではこのかるたを活用していくそうです。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています